

# 1 学年だより

令和5年7月14日発行  
美浜中学校第1学年だより 第5号  
〒279-0011  
浦安市美浜5-12-2  
TEL: 047-354-1199  
FAX: 047-380-4304

## 学年道徳「忘れられぬあいつ」

7月3日(月)6時間目の道徳の授業で、「忘れられぬあいつ(実話)」という教材を使用し、いじめについて考えました。

入学前の気持ちについての事前アンケートから不安なことも楽しみなことも半数以上が「友達」に関することであり、学校生活を送るうえで、「友達」の存在がとても大きいことが分かりました。授業では、裏面の内容を読みました。いじめの構図として、強者が弱者を攻撃するのは一方的な暴力であり、面白がって見る観衆や見て見ぬふりをする傍観者がいたときにいじめとなります。また、いじめは、呼吸をしたり、眠ったり、食事をするなど爬虫類にもある「蛇の脳」に一番影響を与え、「生きる力」を奪います。そこから、「なぜ傍観者がうまれてしまうのだろう」「みんなが安心して生活するために、今、美浜中1学年の一員であるあなたにできることは何だと思いますか」という2つの発問について考えました。以下、生徒の感想を掲載いたします。

・多次郎君のように、自分の見た目だけでバカにされたり、いじめられたりされるのは本当につらいことだし、見て見ぬふりをしている傍観者がいじめられている人にとって最も怖い存在なのではないかと感じた。自分がいじめられることよりも、友達が苦しい思いをして最終的に亡くなってしまおう方がよっぽど怖いと思った。自分がもしいじめられたら、加害者や観衆よりも、傍観者の方が怖いと感じると思う。いじめられている子を助けるのは、勇気がいると思うが、それを理由に見て見ぬふりをするのではなくて、みんなで加害者を止めることがとても大切なのではないかと考えた。

・この実話を聞いて「あり得ない」「そんなことになる？」と思っていたが脳のどこに痛みを与えるかで、絶対はないと思っていたへびの脳に与えると聞いて「ビクッ」とした。少し軽い気持ちで考えていたのが「やばい!!」と感じた。「いじめは生きる力をうばってしまう」ということがとても怖かった。この話を聞いて良かったなと思った。面白がって見ている人といじめている人だけでいじめが起きると考えていたら、見て見ぬふりをする人も加害者ということを知って、被害者は多くの人が見えているのだと考えると怖くて寝れなくなるなと思った。絶対に仲介者になれるように自分の心配をせず、勇気を出そうと思う。

・いじめは「生きる力をうばう」ということだから絶対にいじめをしてはいけない。傍観者、観衆がいることでさらにいじめになる。いじめられている人を笑ったり、見て見ぬふりをしたりしてはいけない。傍観者、観衆もどちらもいじめを止める勇気がないから。自分もいじめられてしまうかもだが、命より大切なものがあるのか？仲介者になり、いじめを止めることは素晴らしいこと。勇気がとてもいるかもだけれど、勇気を出して止める。

・いじめは、加害者は楽しいかもしれないし、ストレス発散になるかもしれないけど、被害者は楽しくないし、一生記憶に残るから傍観者や観衆が多いと逃げ場や心が安らげる場所がなくなっちゃうから、見て見ぬふりじゃなくて、いじめのターゲットが自分になるとかどうでもいいから、被害者と仲良くしたい。

・小学校の時、衛生的によくない子がいて、その子と幼稚園の時は仲良かったのに、小学校の高学年になると周りはその子をばい菌扱いし始めて、私も同じように思われたくないという気持ちでその子を嫌っていました。でも今思うとそこまで嫌う必要はなかったんじゃないか。確かにその子は、汚かったけどそこまでせめて、そこまではい菌と言う必要はなかったんじゃないかと思う。きっとこういういじめは中学生、高校生、大学生、社会人になってからもあるものだと思うし、ネット上での炎上、いじめは多いと思う。もしかしたら一生いじめはあり続けるかもしれない。でも、その時、自分がどう動くのか何をできるのか考えたり、実行したりすることで自殺やいじめは減るのかもしれないと今日の授業を通して思った。

・いじめは加害者、被害者のみではなく、観衆も傍観者までがいて成り立つことを知りました。あのお話を聞いて実際にいじめはあるんだなと思った。語っている「私」は、いじめているつもりじゃなくても仲介に入れないといじめになってしまうのをかわいそうと初めは思ってしまっただが、周りに合わせて無視しているだけでも、された相手は悲しいし、そうってしまった自分はその場にいたら傍観者になってしまうのかなと思った。まずまず、いじめは起きないことが一番。けれど、必ずおこさないというのも難しいと思います。もしかしたら無意識で人を不快な気持ちにさせることもあると思います。だけどその時は、お話のようにどうにもできない状態になる前に自分で気づきたい。

・自分は小学生の時2回辛い思いをしたことがある。その時は、学校に行くことなんて考えられなく家にも普段より食欲がなかったり、時間の使い方が変わったりしていた。それを体験して感じた大切なことは「相談できる人」だ。自分は親に相談したことで気持ちが楽になった。今回多次郎が辛い思いをしてしまったのは、仲介者もいなく相談できる人がいなくなってしまったことだと思った。今回特に学んだことは、人数が多くなればなるほど負担がかかってしまうこと、一言でその人の心情が大きく変化することである。1つ目については、多いとたくさんの人からひどい目で見られているというストレスや圧力を感じてしまうのではないかと実体験や多次郎の話から感じた。2つ目については、人間は気持ちをコントロールすることに時間がかかるので一人ひとりにかかる言葉を考えながら発する大切さを感じた。最後に、一人ひとりの個性を大切に互いに個性を知り合うことが大切だと思った。

・この授業でいじめは人の命をうばうものだと知った。いじめはやってはいけないことだとは分かっていたが、その被害者にとってはその人の命(人生)に関わることだと分かった。自分も昔、いじめられている人の力になれたらいいなと思っていたのに、周りの目を想像すると、怖くて結局どうにもできなかったことがあった。今は、もっと自分にもできることがあったなと思い出す。もういじめは収まったが、先生に早く言っておけばよかったと後悔している。それくらいいじめはダメなことだと改めて感じわかった。これからは困っている人がいたら声をかけたり、仲良くする、相談相手になるなど、「今、自分にできること」を考えて行動したいとこの授業を通して感じた。傍観者もいじめを見て面白がっている人もいじめているので、周りもいじめてはいけないと思っているなら先生に言うなど被害者を守りたいなと感じた。

・見ているだけでも傍観者になってしまうというのが驚いた。被害者を助けたいけど、自分は「もしかしたら、自分もいじめられてしまうかもしれない」ってその時になったらそう思うと思う。「やめなよ」の4文字ですら言うのが怖い。多次郎のことを一番いじめていた女子はなぜ自分がいじめていたのに多次郎が亡くなったら泣いたのか気になる。泣くぐらいなら最初からいじめんなよって思った。この世のいじめている人に聞きたいのが、いじめてなんの得があるのか知りたい。

・いじめで死んでしまうのはニュースで聞くんが、いじめが呼吸、食事、寝ることをできなくさせるというのは初めて聞いた。しかもゆっくり死に近づくから相当苦しいことが分かった。いじめが始まったら傍観者から仲間を作ってみんなで仲介者になり、いじめを止めればよいと思った。最初の方は一人で仲介者になると心細いから仲間を作ってからでいいと思った。もし自分がいじめられたらすぐに家族に相談する。無理だったら手紙で時々配られる相談の電話番号にかける。

・いじめというのは、人の人生を変えてしまう怖いものなんだなと思った。少しでも困っている人を助けて悪い方向にいかないようにしたい。自分も知らない間にそういう環境を作っているんじゃないかと思ったから自分の言動をもう一回見直そうと思った。誰かにいつでも頼れる、そういった環境を作って困っている人を助けたい。

・傍観者は、いじめられている人と同じように扱われたくないから、あまり関わらないという考えをもつ。けれど、それでは被害者の不安は変わらないままだから、勇気を出して話を聞いてあげたり、優しく寄り添ってあげたりすることが大切だと思った。

## 忘れられぬあいつ

私が中学1年生の時、多次郎という同級生がいた。彼は左の頬がこぶのようにふくれていた。それはとてもみにくく、滑稽だった。だから、彼はみんなから嫌われた。机をさわっては「多次郎菌」と言って他の人に付けようとして追いかけたり、ハエが飛んできたなら「多次郎バエだ」と叫んで逃げ回ったり。特に女子の嫌い方は極端だった。体育の時間みんなで走っている時にすれ違いざま、彼の背中に蹴りを入れたり、彼が給食当番で配膳している時、彼が配ったものを食べなかつたり。しかし、彼はじっと耐えていた。毎日休まず、明るく振る舞っていた。それが私には痛ましく、何人かで放課後遊ぶ時など、彼を誘って一緒に遊んだりした。しかし、学校では彼を無視した。みんなの前で彼と話すことを避けた。みんなの目が怖かったからである。「自分も多次郎と同類にされてしまうのではないか」と思うと、恐怖が先に立ち、彼のことをかわいそうなどと思う気持ちも薄れた。

一学期の終わり頃のある日、いつになく朝からはしゃいでいる彼がいた。誰彼なく話しかけている。私のところにもきた。「今度、手術してこのこぶがとれるんだ」という彼の顔は、顔中で笑っていた。「ふーん、良かったね」と周りの目を意識しながらできるだけ無表情を作り、そっけなく答えた私だった。

二学期になった。彼の頬は左右ふくれていた。こぶが両頬についていた。理由はわからなかった。周囲は当然のように気味悪がった。おまけに「嘘つき」の称号までつけていた。彼は無口になった。だんだん彼のことを嫌うどころか無視するようになった。私たちもあまり遊ばなくなった。彼は休むことが多くなった。いつしか、私たちは彼の存在を忘れていった。

冬休みが終わり、三学期の始業式の朝。朝の会の前に、今まで一番多次郎を嫌っていた女子が泣きながら教室に入ってきた。「多次郎が死んじゃったーっ」。そう叫ぶと彼女は泣き崩れた。

多次郎は、前日、わずか13年の生涯を閉じた。死因は脳腫瘍だった。今思えばあの頬のこぶは腫瘍の一部だったのかもしれない。

私たち男子は泣き崩れる女子に腹が立っていた。「一番いじめていたくせに今更なんだよ」という感情だった。「自分たちは一緒に遊んだぜ」という気持ちもあった。

その後、担任の先生が入ってきて、泣きながら彼の最後の作文を読んできた。「1年2組のみんなへ」というタイトルだったと思う。最後の一節が今も脳裏から離れない。「みんな、今までどうもありがとう」。その後、作文は掲示された。みみずがはったような、ふるえる文字だった。頭の痛みに耐えながら書いたのだという。心が痛んだ。

葬儀には学級みんなで参列した。笑顔の遺影を見ながら私は自問自答した。「私にはあの女子を責める資格はない。あの子は本当に悪いことをしたと思ったからみんなの前で後悔の気持ちをむき出しにして泣き叫ぶことができた。しかし、私はどうだ。かわいそうだと思い陰では遊びつつも、みんなの前では無視した。自分も嫌われるのではないかと怖れて。こんな中途半端で自分の都合しか考えないから、多次郎の死を知っても泣くこともできないでいる。多次郎にとっては、自分の都合で態度を変える私のような人間こそが、人間不信を招くような許せない存在だったのではないか」。

あれから三十年の年月が流れた。私はまだ生きている。

## いじめゼロ宣言 スローガン決定

7月4日(火)にそれぞれのクラスで、いじめゼロ宣言のスローガンを考え、翌日投票により、以下のスローガンに決定しました。

また明日みんなに会いたいと思えるように  
～自分もみんなも見つけ合おうよ良いところ～

各クラスで、「どうしたらみんなが安心して生活できるのか」を一生懸命話し合う姿はとても素敵でした。どのクラスでも共通して出てきたのは、「互いの良いところを見つけたい」という意見です。どうして悪口が生まれてしまうのか。それは、自分の心に余裕がなくなったり、自分を好きでいられなくなったりするからです。心に余裕があるときは、ほかの人の良いところ認められますが、心の余裕がないとそれが嫉妬や悪い点に変化してしまいます。そのため、「自分を大切に思うことが、ほかの人を大切に思うことにつながる」ということを伝えました。

スローガンを作るうえで、言い方はさまざまですが、良いところを見つけあい、自分も他の人も尊重しあいたいという願いは同じなんだと感じました。

3年間、このスローガンを掲げていきます。「忘れられぬあいつ」から考えたことを大切に、「また明日みんなに会いたい」と思えるような関わり合いができることを願っています。

### ☆7月後半の予定 (7月17～20日)

月	日	曜日	日 課						主 な 予 定	最終 下校
			1	2	3	4	5	6		
7月	18	火	火1	火2	火3	火4	火5	火6	B時程	18:00
	19	水	月1	月2	月3	月4	大掃除		B時程	18:00
	20	木	式	学活	学活				終業式	11:30

7月31日(月)に、給食費の引き落としがあるためご確認をお願いいたします。

### ☆始業式からの予定 (8月25日～8月31日)

月	日	曜日	日 課						主 な 予 定	最終 下校
			1	2	3	4	5	6		
8月	25	金	式	学活	学活					11:15
	26	土								
	27	日								
	28	月	水5	総合	総合				B時程	11:45
	29	火	総合	総合	総合				B時程	11:45
	30	水	水1	水2	水3	水4	水5		B時程：給食開始	14:35
	31	木	木1	木2	木3	木4	木5	総合	B時程	15:15